

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスばたば有瀬校		公表日		令和7年 2月 10日(月曜日)		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	・法令に遵守したスペースを確保し、定員や活動に適した広さを提供できている。	今後も工夫をしながら、利用児童数や活動に合わせた十分なスペース確保に努めていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	0	支援向上に向け、職員募集をしている。	今後も「安心・安全」を感じながら、利用してもらえよう、適切な職員配置を継続する。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・事業所内の洗面前、玄関に低い段差あり。 狭い場所では遊具設置は難しいため、必要であれば、児童の手をひく等のサポートをしている。 ・トイレと洗面は動線を考え、隣に配置している。	職員が児童に付き添う、必要であれば手をひく等のサポートを今後も継続。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・空気清浄機を設置。一日の始まり、終わりに清掃・除菌・空気の入れ替えを行っている。 ・机は移動できるものや折り畳みのものにし、子ども達の活動に合わせて適切な対応がとれるようにしている。	掃除、除菌、整理整頓の徹底を行う。 クッキング等も行うので、衛生面に充分配慮していく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	・学習時の集中や落ち着くことが難しい子ども、体調が悪い子どもがいる時など、必要に応じて職員室を活用するようにしている。 ・活動内容や状況、その日に利用する子どもの年齢層などに応じて、仕切りを利用し、広いスペースを区切る工夫をしている。	今後も継続。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	・定期的な職員会議、また必要だと感じた場合にも会議を行っている。職員同士で情報の共有や課題の改善案を出し合っている。	今後も継続。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	職員会議を行い、職員間で共有しながら、工夫点や改善案について話し合うことができた。	今後も職員同士アイデアを出し合いながら、よりよい支援に努めたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	できていない。	今後実施に向け、調整を検討。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	虐待・身体拘束防止研修、感染症予防研修等、実施している。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	3	職員に周知はしている。公表はまだである。	年度末までに公表する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	できている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	できている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	できている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	できている。。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	できている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	・職権に関係なく、職員それぞれが様々な提案を行い、立案している。 ・提案をしやすいうよう、職員間の風通しの良い関係づくりに努めている。	今後も継続。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	・利用時間に応じた活動内容を設定し、こども達に楽しんでもらえるようにしている。 ・随時、新しいプログラムの検討を行っており、様々な案が出るので、あまり固定化することなく活動できているのではないと思う。 ・最近では、学習要素を取り入れた工場見学も実施している。	今後も継続。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別と集団、バランスよく行えるよう努めている。	今後も継続。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	・支援前に必ずミーティングを行い、当日の活動の確認や前日の引継ぎ報告を行っている。役割分担が必要な場合も確認を行い、スムーズに活動が進むよう努めている。 ・当日、出勤しない職員には後日、共有するようにしている。	今後も継続。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・活動記録や連絡ノートの記入により、日々の様子を記録、保管している。	今後も継続。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・6か月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。必要と判断した場合には、6か月を待たずモニタリングを行い、支援計画の更新を行うこともある。	今後も継続。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8	0	できている。 また、できるように心がけている。	今後も継続。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	・こども用のアイデアBOXを設置し、課外活動の行先やクッキングなどこども達が希望を職員に伝えられるようにしている。 ・日夜のおやつや学習量についても、こども一人一人が自己選択し、職員と最終決定する形をとっている。	今後も継続。
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	・コロナ禍以降、対面での会議がほとんどない。だが、電話でのやりとりは積極的に行っている。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	地域の医療機関と連携し、協力を得ている。	今後も継続。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	管理者はもちろん、その他の職員も積極的に行っている。学校の協力を得ながら支援を行う事もある。	今後も継続。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	4	直接的には行っていないが、支援員の方がパイプの役割をしてくださり、児童館を中心に必要に応じて情報交換を行っている。	今後も継続。 必要に応じて、直接的なやりとりも行えるようにしておく。
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	該当する児童がいない。スムーズにやりとりを行い、細やかな情報交換ができるように努める。	今後該当児童がいた場合、スムーズにやりとりを行い、細やかな情報交換ができるように努める。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	支援員の方を通して助言をいただくことがある。	今後も継続。
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	8	現在は、実施していない。	機会があれば検討したい。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	8		
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時や電話、LINE、連絡ノート等幅広く活用しながら、ささいな事でもできる限り保護者に伝えるよう努めている。 また、児童館のことで気になることは必ず保護者に共有し、家庭や学校の様子をお話いただくこともある。	今後も継続。
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	8	できていない。	要望があれば検討。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	できている。	支援プログラムについては、まだ公表未実施であり、年度末までに公表する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	年齢や学年、特性的にこどもの意向を確認することが難しい場合もあるが、可能な限り尊重できるよう努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	できている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	モニタリング時、そうでない時にも、必要性を感じたり、保護者の要望があれば、その都度対応できるように努めている。	今後も継続。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	0	8	学校で行われているので、放課後等デイサービスでは行っていない。	要望があれば検討。
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		苦情がある時には、迅速に対応できるようにする。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	2	できている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	できている。 施設可能な書庫に、個人ファイル等保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	視覚支援や絵カード、職員手作りのヘルプカードなどを取り入れている。	今後も継続。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	8	できていない。	要望があれば検討。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	できている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	できている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	契約時や面談時に確認を行っている。 現在、服薬や発作などに該当する児童はいない。	今後も継続。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	アレルギーの把握はしているが、程度的に指示書作成や提出の必要がない児童である。	今後も継続。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	できている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	4	できている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	できている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	できている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	身体拘束に該当する児童がいない。 組織的に決定し、個別支援計画とは別に内容を記載している。	身体拘束に該当する可能性のある児童の利用があった場合には、子どもや保護者に事前に十分に説明を行い、決められた手順を守り行えるようにする。